

部局銘板にみる教養部から情報学研究科への歴史

部局の名称を校舎の玄関等に掲げる銘板は、いつも見ているありふれた風景でありながら、実は上掲式以外の写真がほとんど残っていないものでもあります。大学文書資料室では、こうした銘板も歴史資料として受け入れています。今回は大学院情報学研究科・情報学部関連の銘板についてみてみましょう。

1993（平成5）年10月、教養部が廃止され、翌94年度からいわゆる4年一貫教育が始まりました。教養部の教員の多くは、92年4月設置の大学院人間情報学研究科（独立研究科）、93年10月設置の情報文化学部にも所属することになりました。教養部時代の銘板は、公文書等とともに同研究科及び同学部の事務部が引き継ぎましたが、最近大学文書資料室に移管されました（写真1）。

2003（平成15）年4月、人間情報学研究科、情報文化学部、大学院工学研究科、大学院多元数理科学研究科の再編により、大学院情報科学研究科が設置されました。

これにより人間情報学研究科は廃止となりますが、情報文化学部は独自の管理運営組織を持つ部局として存続します。ただ、実は人間情報学研究科も、在学生が残っている間は厳密には存続しており、銘板も情報科学研究科棟に掲げられたままでした。

そして2017（平成29）年4月、情報学研究科・情報学部が設置されました。この時、一般には情報科学研究科、情報文化学部は廃止とされますが、在学生は残っており、銘板も情報科学研究科は情報学研究科棟の玄関に、情報文化学部は全学教育棟の北側玄関に掲げられていました。

その後、2022（令和4）年12月に人間情報学研究科が、24年3月に情報文化学部が正式に廃止されました。そしてこの25年3月には情報科学研究科も廃止となり、銘板も人間情報学研究科のものとともに25年度中に取り外す予定です。



- 1 教養部の銘板。文字は岐阜県出身の書家吉田桂秋（1899-1984）による。1963年から64年にかけて教養部が瑞穂から東山へ移転した際に掲げられた。
- 2 人間情報学研究科銘板の上掲式（1992年7月）。右が加藤延夫総長、左が横井英夫研究科長。
- 3 人間情報学研究科と情報科学研究科の銘板（2025年4月撮影）。取り外し後は大学文書資料室に移管される予定。
- 4 情報文化学部銘板の上掲式（1993年10月）。左から西尾理弘事務局長、加藤総長、近藤哲生学部長、森正夫学生部長（文学部教授）。
- 5 情報文化学部の銘板。2024年に取り外され、大学文書資料室に移管された。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…

など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp